

船越中学校便り

中 研 司

<http://www.funakoshi-j.edu.city.hiroshima.jp/>

先見性と信念

先日参加した校長研修会の記念講演で、倉敷にある大原美術館の大原謙一郎理事長のお話を伺う機会がありました。その中で、紹介された画家の児島虎次郎の先見性とそれに基づいた信念に感銘を受けましたので、紹介させていただきたいと思います。

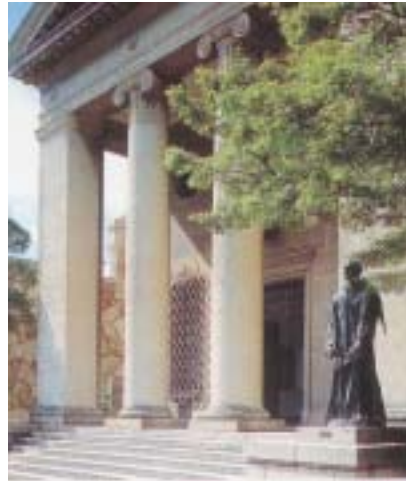
ご存知の方も多いと思いますが、児島虎次郎は、大原美術館が収蔵している美術品の基礎となる大原孫三郎のコレクションの収集を任されていた人物です。さらに、大原美術館は、彼の死後、彼の業績を記念して昭和5年、日本で最初の西洋美術中心の私立美術館として建設されました。

講演で紹介された内容は、『児島虎次郎は、今から80年近くも前に、すでに「世界各国の利害の衝突は、武力や経済による圧力では解決することはできない。それを解決するためには、各国の文化の融合と相互理解以外にはありえない。」という強い信念を持っていた。その信念の基、彼は、「文化の融合と相互理解のためには、直接、日本の若者に、本物のヨーロッパの文化の結晶である西洋美術の超一流品に触れさせる必要がある。」という考えから、彼の日本人としての感性を総動員し、エル・グレコの「受胎告知」やゴッガン、モネ、マチスなど今でも大原美術館の中心となる美術品を選び出し、それを日本に持ち帰った。同時に進めた中国、エジプト美術の収集についても、同様の信念により文化の源流に迫ろうとした虎次郎の心情が伺い知れる。

『現在も、大原美術館は、彼の信念に基づき、小学生や若者を対象に様々な事業を企画している。』というものでした。

この話を聞いたとき、虎次郎の高い先見性や信念の強さに衝撃を受けるとともに、大原美術館が80年近くたった今もなお、その意志を受け継ぎ、美術や芸術を通して若者に影響を与えていこうという姿勢を持ち続けていることに感銘を受けました。

われわれは、常に子供たちの5年後、10年後を思い描きながら教育にあたらなければと思っはいますが、虎次郎ほどの明確な未来像を持ち、それを基にした強い信念を持ち続け、日々の努力を怠っていないだろうか、反省しきりです。



1年生が、野外活動に行ってきました

6月5日～6日の2日間、国立江田島青少年交流の家へ野外活動に行きました。



今年は、施設の利用団体が多く、1泊2日の日程で実施しましたが、前日までの天気予報を覆し、2日間とも天候に恵まれて、計画したすべての予定を実施することができました。

特に、初日のカッター訓練と2日目のクラス対抗大縄跳びでは、各クラスが団結力を発揮、力を合わせて取り組みました。この取り組みにより、相互の信

頼関係や集団行動の意義などについて多くのものを掴んでくれたのではないかと考えてい



ます。

集団で行動する中では、各生徒の気持ちの行き違いが起こったり、利害がぶつかったりと、上手くいかない事や、みんなの気持ちがまとまらず、注意を受ける場面もありましたが、それらはみな、生徒たちが成長できる良いきっかけと考え、今後も指導を重ねて行きたいと考えています。

町内一斉清掃への参加をお願いします

今年も、7月20日(日)に町内一斉清掃があります。

地域に支えられた学校です。生徒の参加については、学校でも指導を行っていきたく思いますが、保護者の皆様にも、お子さんの参加について促していただくとともに、積極的に参加いただけますよう、お願いいたします。

なお、昨年は、一斉清掃の後に地区毎に地区懇談会を実施しましたが、今年は、地区懇談会は別途、実施することとしました。地区懇談会の実施日時・会場等については、後日お知らせします。